



世間娘客氣一

新板  
繪入

世間娘客氣

二

新板  
繪入

世間娘客氣

三

新板  
繪入

世間娘客氣

四

新板  
繪入

世間娘客氣

五

新板  
繪入

世間娘客氣

六

世間娘客氣一

新板  
繪入

世間娘客氣

二

新板  
繪入

世間娘客氣

三

新板  
繪入

世間娘客氣

四

新板  
繪入

世間娘客氣

五

新板  
繪入

世間娘客氣

六

世間娘客氣

▲ 市のりよ

娘害乳追加

并は世親に秋乳 全乳を奉

附老本并乳を奉 面毛の娘を奉

太近と申すは 永く奉るなり

并は世親に秋乳 全乳を奉

天性太乳 乳質 全乳を奉

付 二代の太乳 乳質 全乳を奉

太乳 乳質 全乳を奉

追長 乳質 全乳を奉

色田三味線日記 作者

其の碩

并は世親に秋乳 全乳を奉

好色流球 全乳を奉

付 乳質 全乳を奉

好色三世相 乳質 全乳を奉

風流色 乳質 全乳を奉

陰陽之 乳質 全乳を奉

太乳 乳質 全乳を奉

追り 乳質 全乳を奉

谷村信之

各様 乳質 全乳を奉

席

息女化して新婦となり。埋愛くく姑となり

姑妖く姫となり。持佛堂と云くく。並はの

身となりくく。並はの

父母の親をふあつり。深国の中に我すに

うく。女れ乃とまふへく。一生孫子の

てあつひものふるなり。並はの

とととつこつ。世活れく。幼くより

乃乃は育く。人なる。並はの

か。く。も。人。勝。く。く。く。

と貞言みしと専らく嬌寵する代也  
世帯がふしを病くまゝくはるるなり  
さるは礼記の事との勢。詩經の書  
乃徳をほめく國雖乃富と云々  
あゝよくある好色乃るぞう。まゝ色  
かゝるを女は容れとあつてく。く  
題多しと世は慰州と云々と云

享保二年中秋吉日

其磧



世間娘氣質一之巻

目録

子息素質追加

男と麗ふ金に成る娘

女房のりる金おきくえ女をたえや神  
福と結まればけ肌つる顔のまゝ賣  
嫁への結を解きまづうううりて教  
大袈裟に神を以てまゝくわく















菓子入は切食ふれ者あませられて移りし海邊のふか茶  
種は榎尾れり。夢を入ふあられとくあはゆ水もゆと  
髪はうろは帷子の度種は。地多の裏付とらむせ帯を  
前縁をえつり。飛散の白くこのむ方よりくる。情所  
かへんものぞくものあれつとくれり。あまをうとれぬ  
ぬかむききせよ。今より度れ時かき。昔の記時。夢むい  
ひつとせよ。夢前照る家久。さかゆひひけり。さうか  
ぬ性入る。空の角れおの珍き。うて移入る。さきさき。園  
乃風うつる。夢家の裏る。夢たふる。かきやう。いり  
あふ。せまる。れ女の。い。あ。い。の。事。も。か。き。う。と。り。き。あ  
よ。こ。あ。つ。この。様。あ。う。せ。あ。う。う。せ。あ。あ。の。家。様。あ。の。さ。き  
とん。ま。ま。あ。も。さ。き。入。く。あ。あ。あ。ん。ど。は。う。り。十。極。善。善。が。ま。あ  
三。時。源。流。う。さ。花。む。さ。び。と。て。女。れ。う。む。む。程。の。事。い。ん。と。仕  
つ。う。う。さ。き。あ。ま。れ。相。撲。の。袖。目。七。の。雷。電。が。務。員。さ。き  
ん。ど。あ。あ。れ。ま。い。と。肉。は。金。砂。子。は。秋。の。野。う。さ。き。あ。の。の。に  
ら。う。女。れ。さ。あ。あ。ん。と。い。事。む。う。い。は。あ。も。さ。き。う。り。事。と  
か。せ。る。一。切。の。男。女。あ。ま。あ。り。く。何。さ。あ。て。と。細。目。と。う。あ  
つ。と。成。敗。さ。き。は。夢。園。は。あ。あ。あ。く。あ。あ。と。目。れ。さ。あ。さ。き  
さ。き。あ。り。さ。き。あ。は。段。の。封。井。后。姐。已。の。封。う。さ。き。と。龍。格。の。さ  
き。と。目。と。う。さ。き。の。周。の。幽。王。の。磨。似。の。び。て。情。あ。あ。あ。て  
さ。き。れ。く。も。さ。き。あ。房。さ。き。と。目。れ。さ。あ。あ。と。う。さ。き。の  
目。と。さ。き。の。代。三。百。さ。き。あ。新。判。と。八。百。さ。き。あ。さ。き

とんままあもさき入くあああんどもはうり十極善善がまあ  
三時源流うさ花むさびとて女れうむむ程の事いんと仕  
つううさきあまれ相撲の袖目七の雷電が務員さき  
んどもあれまいと肉は金砂子は秋の野うさきあこののに  
らう女れさああんとい事むういはいあもさきうり事を  
かせる一切の男女あまありく何さあてと細目とうあ  
つと成敗さきは夢園はあああくああと目れさあさき  
さきありさきあは段の封井后姐已の封うさきと龍格のさ  
きと目とさきあの周の幽王の磨似のびて情あああて  
さきれくもさきあ房さきと目れさああとうさきの  
目とさきの代三百さきあ新判と八百さきあさき







本烟草之類と極まれ。大後どういふつゝにあらざる所建れる  
 に奇跡とありて笑されしを玄宗北都にて席植はもとれかり。  
 鼻もあてやうな内儀元來蕭の名人時秋なるを輝  
 月落葉として旅人古きより云漢楚の戦ひのは九里山まで  
 張良が嚆矢の一石よきところてうとされ満ちあふ今まで  
 驚きにさざりる血氣の男元係は臨幸まつく親文の身か  
 臨みおしまひられ金まじもむ事につひとて公眞加  
 えむい事といひ付し衆食喰とはゆらいたるまでもありしそ  
 斎めたるもたぬぬの具はあられたる治所へ実の親れから病お  
 きく、そのころ一巻する古の事とぞ言ひて三條線抱き  
 ら洞であつた親方かられ由人のまづ人とてて。平日あがりゆふ

なる附け事。お世せられ、流るゝは腰をうやむとてよその女た  
 らるゝいふもよからぬ尾の多い葛絨織ぐ麗うあつぬ。  
 うあつゝやとらるゆもえんといひてむしひんさうことくじ  
 て使末も貴とぞかりあひとあれて驚き葉外のもよみとを  
 あつゝあつゝ肩方とぬりかちと膝自の時をかろて同  
 をうせの自前の白人へお寝なると裸よりともうつそ付合  
 の飯料と呉服代よりまで流るゝのみきてるまれば世傳の  
 る事かとえんご家にもおもあつどもはそれさうであつて  
 お世ひ時を勤持するものある言まとあつていふ重穴あつ首編  
 は舞ともんざやあつゝわらこいほせまやない持の役  
 とそむり酒のあらにやうと増とありぬ大店の端方と懐め















世同娘客氣二之巻

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the story or a commentary. The text is dense and fills most of the page.

世同娘客氣二之巻



目録

子息形意追か

世帯持と娘根より金と惜まの侍乃娘

半人け楊枝多うのききまものつゝ荒る富

思ひの病うぬえきあはれとん成臆病若

盗人しきくきあはれ乃妻女れとてい

画性娘

春 のとうみ 迎 あひ あ い い ゆ 袖 あし あ し と あ 如 あ 在 あ ち あ 肉 あ 儀 あ 下 あ 心

一門んづきあひを今かきとぬ乃ん賃仕事

表うられるさうりはや津さ強き揚りよさ前まへれるひさ材ざい木もく石いしのい娘むすめ

嫁流の氣のまゝいゝ懐のまゝ射と嫁に挨拶

[illegible]

啼<sup>な</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>よ<sup>よ</sup>ふ<sup>ふ</sup>茶<sup>ち</sup>碗<sup>わん</sup>風<sup>ふう</sup>今<sup>け</sup>ぞ<sup>こ</sup>留<sup>り</sup>止<sup>ど</sup>み<sup>み</sup>の<sup>の</sup>上<sup>う</sup>声<sup>こゑ</sup>  

 ちんちん  
 ちんちん  
 のそ  
 ちんちん  
 しんちん

世帯持ちを弔銀より金と惜まぬ侍の娘

上野の樓にて人々内儀の容我自懷をある娘に母の親ひを

らうてむらわるゑ北江裾のきくともいふとたへんひふ

是れも今の世に人々もつゝも悪き人々もつゝも

あゝこのおもふと異國の果報の巻とて一應しんえ

そのついでに、おぬは今日まで、あつむの徳成りをしてゐる

ふりふり美形の二徳嫁入筆の始り度いおと月ぐえいたをな

つゝ凡そ又あつゝと云ふは服部の手記を以て

て有<sup>う</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>こころ</sup>む<sup>こころ</sup>を<sup>こころ</sup>。店<sup>みせ</sup>商<sup>あきなひ</sup>の<sup>こころ</sup>代<sup>しろ</sup>より<sup>こころ</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>こころ</sup>く<sup>こころ</sup>毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>の<sup>こころ</sup>聲<sup>こゑ</sup>を<sup>こころ</sup>山<sup>やま</sup>々<sup>々</sup>

を様の盛る亭様の前よりさきぞゆらん事とまほしき事なり

まづふりてひるけく。ちやうどあらけり。あつめり。















大やうにせうけぢやうきりといふをり。同い丁銀と天祥銀  
 まう程目あひ百なをけ。唐座まのの金糸とかりて候かま  
 まがらんものうの西向乃座ひと普く候まをせ。新かり乃  
 重銀と云ふ。人々の大やうの形つと内儀の氷のこは炭  
 火かうて田樂やうくまうあまひまふ。まがらん金  
 わさとして身代と云ふとあわとまう。湯はあまはじ  
 大いふあまあままてまの銀元中ぬとかく。あひてあま  
 天祥銀と云ふ。たえん銀と云ふ。可成まのの梅のまの  
 かりくは板おとさうせ。まあかうあうらまわくとせまこ  
 提重れおふ茶座と云ふ。け料おといひ付。提たんとかんの大  
 小如座と候け。船目山と云ふせん。茶と唐天目と云ふことりせ  
 ままの者あつて内あていさ。備報や毎れ目限おとと候  
 提つたれ。提つたう。佛檀のるふとらまう。むひとらあ  
 てあまと云ふ。おとくは役者とてあつていさ。まん  
 おかつと云ふ。お周屋と云ふ。せうも。まの杉。磨香入る。洗  
 粉。洗るらま。洗。うけ。あま。とて。あま。い。白。ま  
 乃牙。中。と。海。と。う。わ。う。く。あ。う。せ。ま。あ。う。り。ま。う。く  
 山。屋。や。え。く。夕。げ。あ。う。あ。う。く。ま。日。と。入。く。山。屋。あ。う。候  
 燭。と。つ。け。お。夕。食。あ。け。う。と。商。事。つ。と。あ。て。あ。う。れ。は  
 用。大。事。に。け。ひ。の。是。ね。あ。う。い。と。か。事。と。ま。う。上  
 下。ま。ひ。う。り。事。と。う。ま。う。名。正。月。夜。更。の。お。候。時  
 夜。装。ま。う。う。り。用。提。う。ま。う。う。は。ま。く。針。ね。の。つ。と。あ







近事とて下されし小神をいふるもさるるひききとて此の世に  
舞の付庭のふり舞ひとてさるるひききとて此の世に  
枝は結ひとてさるるひききとて此の世に  
つらへ今月よりさるるひききとて此の世に  
さるるひききとてさるるひききとて此の世に  
れどもさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
事さるるひききとてさるるひききとて此の世に  
丹の衣とてさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
ふとさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
れどもさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
さるるひききとてさるるひききとて此の世に  
むとさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
見とさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
更柳とてさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
内殿とてさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
奥座とてさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
今さるるひききとてさるるひききとて此の世に  
はとさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
事とてさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
水の物とてさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
さかぬとてさるるひききとてさるるひききとて此の世に  
へくはとてさるるひききとてさるるひききとて此の世に

ふ小袖薬司は衣巻れ事へあるく白紙にねあるくわさるひ  
ほと肝ろをせぬくの毛持ををわけをそく吟味するに取悉満  
圓き北城やむろふとの毛枕もろくもことなりうもそく  
も荷張の文巻れ蓋ろもなやと焚れれの入をきて押とい  
まが肉焼ちると女房れらるを焚焼ようろせうかと身代乃  
柄きようかひるるよ。そと西國れは火急なぬうゝある家の  
御用とてけろるふ武可ぬぞれ出。ん毎と居るも小判れを  
るし事。うもわかつた身より女房の物を焚焼るをうれぬろ  
さきとい。声とてうろふの事とせんはわさまをてん  
かづんていふとさうろ娘やむんさうろりさきうてをも  
ふとろふもあつて。それきでかろるわさる細あまつくことぬや  
罵れるひとていふていふていふと後さるるれい  
まきとてあられ日ろとさふあき事うあつて肉候れるを  
小倉義一かり薬司大吟味せうろに紙ろ敷入てる。色う  
事いわらんと油味の焼う方と穿鑿あるふろ方と焚れあ  
わく夏をれ抱ろともろろと抱と焚れあれせんうと年季の  
あつともせうけくやうとさうい。まきに親親の女中つとあひ  
親と焚あく。焚りあれねるあつとこの様あわけさせ候者  
みえ乃付座はわ茶座のきとらひ。万事の物入かあるるを  
しねふ二乃身まをを打くわさるう。向後親親つと焚  
いふあつて。親れ日小葉まをを打と焚あは焚あつけ扱  
焚あ西とて働あくもわいあて二き焚焚り。はと。し。候

され居るなりぬらば瀧也を傳ふされ目のめいひとて  
おけりて糊つけ物なるる紙ひの首うつくすを  
乃賢は事ほとまかけ物仕多所屬もむとてな事とて何れ  
ちく残もむせとていふに中にも事とてむす  
用とていふなりみいふなりかりと

老もなる海嶺瑞は高のるい村なる娘

國様の國は何れ入なりやふさね娘がうらやとて人殺

いひまうたれといひ娘を棄てむとてけいひれをひを

いふなりたれがうらやされ人のふさねふわとて親を

さけりたりとほとてあふ面好かふなり棄てりる年れ

ぬい男とていけいせの遊如の應に代とてあふ男と

あふ大なるなりとてあふ婦人の氣持ありてあふ事と

あふいふれあふ病を病いあふ老を老とてあふ事なり棄てり

あふいふれ嫁入をせとてあふうらやなり親父とてあふ利の

あふ客を客とてあふ事とてあふ男がふさねたといふとてあふ

あふ娘とてあふ男とてあふ事とてあふものなりかあふとてあふれ

あふいふれあふ事とてあふ娘を病い大事にけいひとてあふ娘の

あふいふれあふ事とてあふ娘を病い大事にけいひとてあふ娘の

あふいふれあふ事とてあふ娘を病い大事にけいひとてあふ娘の

あふいふれあふ事とてあふ娘を病い大事にけいひとてあふ娘の

あふいふれあふ事とてあふ娘を病い大事にけいひとてあふ娘の

あふいふれあふ事とてあふ娘を病い大事にけいひとてあふ娘の

かひ輝の世はあはれ一美格なるかひと男もさへ入るに  
 る也ともの通る女醫もあはれ一いふに思ひ付る  
 お昌城れあはれとまゐる穴材もあはれ有はれ女医  
 形あはれ病時回針もあはれ也かいらうもあはれはれなり  
 光琳もあはれとこり針れに裏はれふ十三かりれあはれ  
 あまなむとひとやを車づれ抱帯もあはれ三葉の衣  
 あはれとくもあはれかくはれとくもあはれとくもあはれ  
 めわいもあはれ中もあはれあはれとくもあはれとくもあはれ  
 る事あはれとくもあはれとくもあはれとくもあはれ  
 るわあはれとくもあはれとくもあはれとくもあはれ  
 けあはれとくもあはれとくもあはれとくもあはれ

かひ輝の世はあはれ一美格なるかひと男もさへ入るに  
 る也ともの通る女醫もあはれ一いふに思ひ付る  
 お昌城れあはれとまゐる穴材もあはれ有はれ女医  
 形あはれ病時回針もあはれ也かいらうもあはれはれなり  
 光琳もあはれとこり針れに裏はれふ十三かりれあはれ  
 あまなむとひとやを車づれ抱帯もあはれ三葉の衣  
 あはれとくもあはれかくはれとくもあはれとくもあはれ  
 めわいもあはれ中もあはれあはれとくもあはれとくもあはれ  
 る事あはれとくもあはれとくもあはれとくもあはれ  
 るわあはれとくもあはれとくもあはれとくもあはれ  
 けあはれとくもあはれとくもあはれとくもあはれ

かりて洞をへりてねむる。葬れのをる日、多代はひひ付。大坂半  
 をありき。いさしてあぢきなく、きつてけり。あぢきなく、きつてけり。  
 此葬送、今日何時とてさうとて、あてられき。きつてけり。あてられき。  
 かよふ。あぢきなく、きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 なる。れき。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 ま。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 あ。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 て。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 き。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 大。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 中。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 あ。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 乃。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 此。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 と。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 小。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 ち。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 傷。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 て。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 云。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 二。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。  
 也。あてられき。きつてけり。あてられき。きつてけり。あてられき。





廿九日

世間娘容氣二之也

和國歌集卷之十一

Handwritten text in Kuzushiji script, likely a transcription of the Japanese text on the opposite page. The text is written in a cursive style and spans most of the page.

妻留娘形氣三之巻



目録

子息の質追加

悟氣<sup>もんき</sup>とらふ<sup>らふ</sup>つ<sup>つ</sup>つ<sup>つ</sup>白<sup>しろ</sup>苗<sup>なえ</sup>若<sup>わか</sup>娘<sup>むすめ</sup>

迷<sup>めい</sup>惑<sup>わく</sup>が<sup>が</sup>離<sup>り</sup>の<sup>の</sup>首<sup>くび</sup>お<sup>お</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>和<sup>わ</sup>尚<sup>しょう</sup>の<sup>の</sup>美<sup>み</sup>見<sup>けん</sup>

は<sup>は</sup>ね<sup>ね</sup>の<sup>の</sup>親<sup>おや</sup>の<sup>の</sup>育<sup>そだ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>耳<sup>みみ</sup>料<sup>りょう</sup>子<sup>こ</sup>

今<sup>いま</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>業<sup>わざ</sup>あ<sup>あ</sup>へ<sup>へ</sup>聲<sup>こゑ</sup>う<sup>う</sup>て<sup>て</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>

不意者て身と懸抹者乃娘

月が西へ流のどろめ意せしと嘘線煙ひ

呉服前より抱ふまゝとていふ大玉乃預子

肉虎へあうりふ歸元乃あんぬと

物好の保少社ふれ花へ咲ふと兄才乃娘

新玄の柳は婿とつ枝木屋乃花娘子

西性お妹娘果へ后棚へ干ふれち金

表れ石の福より若妻にむつと脇指は利下奴

情氣いさるといふ乃細白齒は娘

大坂より人々笑あつて未だ笑用あつとあつぬも花澤

とぬり娘は親にお母よりあつと新とらも身よけ親の親

より様のおもひ親とぬもあつとより妻身のお母と親の新

乃方より紙書信の方より衣類の袖二口の由後合親父の言

利の振借と身代りつとあつと肉虎の幸いととていふ大玉

もていふぬとぬり様は年格より朝とるあつと屋よりあつと

あつとせぬ中へ横は福はあつとぬもあつとまゝとていふ大玉

煙とるも子孫を流つとあつとぬもあつとあつとあつとあつと

家とつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと













お花き油の首をさぐりてあるは合。まづの嶺かほぐられ  
よの疵瘡もたまふ。二三歳乃女子や。さし。さき業れ業ま  
ぬ。六襪襪も。と。び。娘。あ。諸。れ。切。つ。と。合。せ。肌。の。や。う。か。る。  
やう。と。ま。ふ。と。う。け。と。判。合。す。ね。の。骨。を。知。り。あ。り。も。二。親。れ。世。娼。  
大。く。さ。る。び。せ。う。う。り。琴。三。條。端。さ。う。せ。は。は。う。う。物。々。糖。  
袋。の。底。に。お。き。る。海。で。磨。こ。も。わ。り。と。か。や。く。と。わ。り。の。娘。と。は。  
て。き。と。く。万。石。と。り。れ。は。大。名。を。智。と。う。と。若。敷。の。祖。父。祖。  
母。と。う。や。ま。り。れ。老。の。事。の。一。と。さ。と。め。ん。と。ま。ぬ。う。れ。と。世。娼。  
室。を。持。ち。し。も。い。は。る。も。と。う。り。ど。う。と。も。後。は。老。桂。香。と。  
て。書。き。ぬ。ま。し。う。さ。し。と。う。れ。娘。あ。つ。と。ま。と。ぬ。と。せ。ん。と。諸。と。  
見。る。う。い。あ。り。ち。り。い。ま。入。と。ま。さ。る。ふ。天。生。親。の。ち。も。た。ま。さ。る。と。う。

く。お。花。き。油。の。首。を。さ。ぐ。り。て。ある。は。合。ま。づ。の。嶺。か。ほ。ぐ。ら。れ  
よ。の。疵。瘡。も。た。ま。ふ。二。三。歳。乃。女。子。や。さ。し。さ。き。業。れ。業。ま  
ぬ。六。襪。襪。も。と。び。娘。あ。諸。れ。切。つ。と。合。せ。肌。の。や。う。か。る。  
や。う。と。ま。ふ。と。う。け。と。判。合。す。ね。の。骨。を。知。り。あ。り。も。二。親。れ。世。娼。  
大。く。さ。る。び。せ。う。う。り。琴。三。條。端。さ。う。せ。は。は。う。う。物。々。糖。  
袋。の。底。に。お。き。る。海。で。磨。こ。も。わ。り。と。か。や。く。と。わ。り。の。娘。と。は。  
て。き。と。く。万。石。と。り。れ。は。大。名。を。智。と。う。と。若。敷。の。祖。父。祖。  
母。と。う。や。ま。り。れ。老。の。事。の。一。と。さ。と。め。ん。と。ま。ぬ。う。れ。と。世。娼。  
室。を。持。ち。し。も。い。は。る。も。と。う。り。ど。う。と。も。後。は。老。桂。香。と。  
て。書。き。ぬ。ま。し。う。さ。し。と。う。れ。娘。あ。つ。と。ま。と。ぬ。と。せ。ん。と。諸。と。  
見。る。う。い。あ。り。ち。り。い。ま。入。と。ま。さ。る。ふ。天。生。親。の。ち。も。た。ま。さ。る。と。う。







